

平成27年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ふるさと再発見・発信事業
事業主体 (連絡先)	須坂市 (総務部政策推進課)
事業区分	その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	3,487,193円 (うち支援金: 2,615,000円)

事業内容

- ・地域の人たちが参加し、外部の目を交えて日頃は見過ごされているような小さな素材も含めて未活用の資源を発掘し、豊洲地域を面的に楽しめるふるさとマップを作成しました。
- ・マップは、観光地や施設を紹介するだけの従来の観光マップとは異なり、地域の住民が参加し資源を発掘することで、単に建物が連なるだけのものではなく、そこに生活する人々が見えるようなものになりました。



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①マップの作成を通して新たな観光資源、埋もれた観光資源を発掘することができました。
- ②住んでいる地域の魅力を知ることによって、地域への愛着がますます深まり交流人口の増加につながりました。
- ③ふるさとマップを峰の原高原のペンション宿泊者等に配布し、地域内を周遊していただくことで滞在時間が延び、食事をしたり買い物をする時間の増加につながりました。
- ④①～③の結果、将来的に定住人口および児童生徒数の確保が期待できます。

【目標・ねらい】

- ①地域の魅力向上
- ②交流人口の増加
- ③滞在時間の延長
- ④定住人口・児童生徒数の確保

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・マップを使って地区内を周遊していただき、地域の魅力を理解していただくとともに地域の人と触れ合って愛着を感じていただき、再度の来訪につなげます。地域に魅力を感じた来訪者が交流から移住へと結びつき、地区の定住人口を確保します。
- ・地域の魅力が向上することで、近隣からの流入も生まれ、定住人口を確保します。
- ・地域の魅力が増加し、定住人口が増加することで児童数を確保します。

※自己評価【A】

【理由】
絵地図づくりの過程におけるワークショップや取材を通して、地域公民館が中心となり地域住民のネットワークが構築されたことが地域にとって最も効果が上がった部分だった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある